

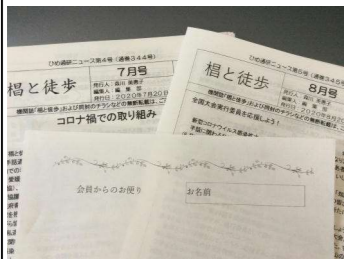
愛媛支部

機関紙「梶と徒歩」ができるまで



愛媛支部では毎月1回、機関紙「梶と徒歩」(すぎととほ)を発行しています。行事報告や各部からの情報、全通研本部からのお知らせなど、毎号20ページ程度の新聞です。「密」を避けるために行事が中止・延期になり、集まる機会が少ない今、機関紙は貴重な情報源であり、支部と会員をつなぐ役割を果たしています。

制作は、発行の約2カ月前から始まります。編集部の作った編集計画案をもとに、役員が内容や構成を相談し、それぞれの記事の担当者に執筆を依頼します。原稿が集まると、編集部が紙面をレイアウトし、それを役員で構成される約10名の校正委員が細かくチェックします。印刷は、各部の役員が月ごとに交代で担当し、ときには役員や家族や会員有志が手伝ってくださることもあります。



最近、「会員からのお便り」という小さな用紙も同封し始めました。

機関紙の感想、身近な話題、素朴な疑問など、どんなお便りが寄せられるか楽しみにしています。これからも機関紙をさらに楽しく役立つものにしていきたいと思っています。

私たちにできることは…

香川支部

香通研では、すべての行事が中止となり、先が読めない状態です。どこの支部も同じ悩みだと思いますが、何をすればいいのか模索中です。そんな中で「ジャンプ講座・アップUP講座」に代わるものとして、機関紙に同封する形で様々な学習法や情報をお伝えしています。また、県のホームページを活用し、コロナに関する最新情報も掲載することになりました。11月から3月にかけては、コロナ禍のために開催できなかった40周年記念行事の代わりに、記念連載を行う予定です。内容は現在協議中です。お楽しみに(*^-^*)

会員数としては9月12日現在で85名、その中で現在、7名の新しい仲間を迎えて活動中です。夏が終わり冬のインフルエンザも気にしつつ「コロナと闘う」のではなく「WITHコロナ」で上手に付き合いたいですね。

継続会員さんを大切にしつつ、新規会員さんが来年度も継続してくれるように様々な活動をしたいと思っています。



あさいと
結社

会えないからこそ繋がってよう

「全通研活動は人と人とのつながり」だからこそ「顔を合わせることが大切」と強く思って今日に至りますが、コロナ禍の影響で、それがなかなかできずにいます。養成講座は1か月遅れでやっと始まりましたが、それも今後はどうなるか予想ができません。そんな中、早々に会費納入してくれた方、令和キャンペーンで入会してくれた方、会員みなさんに何か還元できることはないかと事務局会議で相談し、透明マスクの配布を決定し、会費納入してくれた方にお渡しできるよう、120個のマスクを準備しました。また、今後の災害や緊急時に備えて透明マスクを情報センターに100個程度保管用として寄贈することにしました。

高知県の人口は年々減少、7月末で69万1千人ほど。四国で一番人口の少ない県ですが、人口減にもコロナ禍にも負けず、とさ通研は今過去最高の113名(8月末)の仲間ができました。この輪を大切にそして強固にしていかなければと思っています。

高知支部

「WITH・コロナ禍を過ごして」

6月に入り、手話奉仕員養成と手話通訳者養成を順次開講できるようになりました。現在、開講しているのは、



徳島市、吉野川市、美馬市、東みよし町。通訳者養成は、【手話通訳I】を徳島市内と県南の海陽町(海南)で開講しています。どの講座もコロナの感染対策をしながら三密を避け、フェイスシールド等考えながら受講生も協力的。8月に入ってからは、4つのクラスター発生などで、開催中止を余儀なくされた市もあります。いまは何とか今年度で修了ができることを祈りながら進めています。そんな中、手話Café「ゆびっち®」は6月から月に一回継続開催しています。今知ってほしいことなど情報提供をしながら、手話で話しができる一時を楽しんでいます。後半期は、季節を味方に様々な活動を「WITH・コロナ」を考えながら進めていこうと計画しています。



徳島支部